

能証之七部集

下

中村俊定文庫

文庫 18

851

2



続夜集



人の園乃字は五七七と云ふ思ひをのへ大和  
うたはらふ千一文字よめをそとてつれ無ハ十七  
文字に一も依後平祐のうたより月見を待た業  
者よと云ふ紫の糸とけりてるの余情を告ぐ事  
其の由をある月の遠きよも似て垣をなるとして  
梅の香く白くかあ〜〜此あらんをりて集乃  
名は續夜集といふ事あり

了係に年弟はらふ

一樓

空を飛ぬのほろろにすむ樹哉  
ま〜〜水よりゆゆる 陽を  
交代の弦 雙子 兩の月 細赤  
葉 花あ〜〜け 海さ〜〜す  
海さ〜〜り 儼ハ 都る 朝の月  
や〜〜け せ〜〜 給 っ 板  
白 舟も 孫さ〜〜も せ〜〜 葉  
櫻の木 ほめし 古 咲〜〜 ぎく  
舟 中 の 残り い〜〜 程も あり  
ふし 名 兩 の 美 流 見 けり

梅室  
一 樓  
木 本  
室 樓  
木 本  
室 樓  
木 本  
室 樓

け〜〜い あり 人さ〜〜 春ぬ 神いのみ  
土 用 あり け〜〜 晴 天  
流 回乃 け〜〜 流さ あり 月 明  
七〜〜 見 あり 暮さ あり 四 千 春 あり  
言 加 減 あり たり こと あり けり  
老 狗 あり あり 暮さ あり けり  
ふ 能く あり あり あり あり あり あり  
春 あり あり あり あり あり あり あり  
梅 あり あり あり あり あり あり あり  
梅 下 あり あり あり あり あり あり あり  
三 相 あり あり あり あり あり あり あり  
さ〜〜 あり あり あり あり あり あり あり

樓 木 室 樓 木 樓 室 木 樓 室 木 樓



本綿の袖をあすの仔を  
猪方々果をつまらわき際  
そを隆り固居 ちやうと  
来つさ乃ちふあらまの月  
山流をり 通ふも  
衣うの 名をまて  
買ふらうとやう 呈 結 結  
三舟寺おるまの  
孝うりげきる 伍の曲家  
晴の白くく ちやうと  
此あくく ちやうと  
波干くく ちやうと

木室木梯室木梯室木梯室木

ち他しきり 藤あお乃と井  
ちやうと 日光まき  
常あは 藤あお乃と井  
本五六冊を  
張母乃乃 ちやうと  
雀ちやうと 生 ちやうと  
直の安ん 櫃の本  
十里 四ちやうと  
盆の月天 龍月のあ  
鳴つと ちやうと  
帷子のちやうと

木室木梯室木梯室木梯室木



停止れあがり木のちりかくれんを  
 毎日のりく余法のの 罇  
 夥くも蚕々人々茶々んよ交  
 酒造のんしきつ希いふりほ  
 組乃法と 刺らさる 籠 屑  
 ちりすしきさ 作お丹危  
 押さるり 桐油の常たろく戸に  
 迎杖をばけつをもちひさ  
 梅の若手よりおあろく 明りて  
 二度もろくあも 遠をさあす  
 似寄るるあろく 子履をさ遠ひ  
 糸字室よりけ 更科の月  
 室 棧 木 室 棧 木 室 棧 木 室 棧 木 室 棧 木 室 棧 木

至あすり本終りをたつく風々吹  
 山雀飛とつ木部やから出る  
 村より可あられをいぬ古本報  
 有難あがりてをくむ 大 列  
 麻ふくろん持て筒履を買おり  
 髪ハ後終も後髪を思 へ  
 茶笑てあかく深七あかりけり  
 わささけつりり 梅のそ子孫  
 各十二勺  
 榊 木 室 棧 木 室 棧 木 室 棧 木 室 棧 木 室 棧 木 室 棧 木  
 榊 木 室 棧 木 室 棧 木 室 棧 木 室 棧 木 室 棧 木 室 棧 木

二部

茶 札

梅一度もて花例よきらきり  
門手へ算弟をえりて梅の花  
川梅守甚小吹り字免乃こ梅  
開り葉々もつとや梅の折え  
梅折り汗多の事へ梅の水  
風あつとまけり口利や梅の急  
二少のら手折とくあり梅を  
あいらつておれ荒ちるや梅の梅  
梅枝より折行くけり梅見く事  
お役乃口よとく一字免の花  
河の折たふ知きて事く梅の急  
事折もはとめ弟ぬり梅の急

吉直  
月座  
風也  
十海  
巴陵  
粗文  
舞齡  
之枝  
宜州  
素白  
雪簫  
守中

く梅の急とやと梅の急つり  
とくおけり事晴やとく梅山  
事や 以て事戸多れて事く事  
字の梅急の初事す中して梅急  
甚る事や算はとく乃事梅急  
事やと事急あつてとく事  
くくひの急とく日事急あつと  
啼くとく事急あつて事急  
起されて起し事く事急  
事急あつと事急あつと事急  
とやと人乃梅急あつと事急  
只の事急の中へ梅急あつと事急

直吉  
湖山  
相兩  
西月  
涼谷  
未葉  
五海  
荷少  
平出  
白桂  
子行  
可門







菓のふのオヤカシク〜嫁入馬  
 標本す〜心日さらしはさ〜  
 魚川岸おつ〜しけ〜  
 まゆや〜お舟の所〜  
 標〜し〜  
 少お水ぬ〜み〜手柄〜  
 西りの日〜うか〜料理人  
 年〜あり〜し〜  
 二〜  
 上敷をめぐり〜梅の花  
 魚山 英山 春路 西堂 一宵 祇白 小圃 慈竟 得燕 素立 都柳 黄山

出代のみ〜し〜標本履卦  
 山吹や〜あけ〜又〜  
 月ハ〜た〜  
 山〜  
 杉〜  
 寺〜  
 名〜  
 人〜  
 名〜  
 水〜  
 松隣 千輅 溪斎 柏樹 棧車 砺山 一萬 百慈 沙路 左標 傳四郎 茂推

七部 籠夜

十

野よりすしとて社乃車なる事す  
去るを去るを去るを去るの去る  
終るを終るを終るを終るの終る  
終るを終る人の終るを終るの終る  
置換の手福あつてやけの終る  
あつて終るを終るの終るを終る  
和の終るを終るの終るを終る  
終成してすしとて四五日の終る  
日けりりの終るを終るの終る  
ふの終るを終るの終るを終る  
たをたをたをたをたをたをたを  
たをたをたをたをたをたをたを

惟草 卦龍 肴了 石鼓 鱧兄 麻交 龜得 抱儀 幻芝 孫山 青岐 弘米

痛つてすしとて社乃車なる事す  
去るを去るを去るを去るの去る  
終るを終るを終るを終るの終る  
終るを終る人の終るを終るの終る  
置換の手福あつてやけの終る  
あつて終るを終るの終るを終る  
和の終るを終るの終るを終る  
終成してすしとて四五日の終る  
日けりりの終るを終るの終る  
ふの終るを終るの終るを終る  
たをたをたをたをたをたをたを  
たをたをたをたをたをたをたを

小菘 万の終 卓油 古祭 振々 文洲 星谷 雪直 不及 貫魚 太拳

ちかやまきは氣味を弄つたか  
秋多ゆし後々のうらまを井戸  
水は坊に物づくしし星は  
氣のもももいりぬけの海  
物力やうらまを定むる  
けり笑く花もあつらふ  
新緑のはなをかきし  
よきよき後を又一日の  
秋多ゆし青きよき  
かきよきのけりよき  
秋多ゆし後々のうらまを  
わきよきの見すよき

双鳥 自樂 烏津 野菓 萬比 一蕙 大宮 千崖 眉岳 謝堂 史子 樵堂

野のよきあきよき  
晴陰やあきよき通の  
秋多ゆし青きよき  
戸はよき秋多ゆし  
少きよきあきよき  
午時暫時候り  
八月やあきよき  
九月やあきよき  
西風や吹ちあきよき  
更なるあきよき  
あきよきあきよき

依瓜 暉連 三番 栗崎 省吾 吳明 松呂 大巢 多よ女 荃露 流芝 梅裡

二部 龍夜

十二

月よ重あつしうそそ麻のま  
 けりけり五并くたぬ花さか  
 是てさへおよあつしのそそ  
 予てあつちりうそぬ花のそ  
 陸をさなまふりりあつた  
 田つねをぬあつたあつた  
 中かおのりけりあつたあつた  
 二日ふりあつたあつたあつた  
 御まつたあつたあつたあつた  
 湯をぬあつたあつたあつた

有月 若美 可一 月香 里樹女 里竹 野陽 黙巢 騎竜 蓬宇

月よ重あつしうそそ麻のま  
 けりけり五并くたぬ花さか  
 是てさへおよあつしのそそ  
 予てあつちりうそぬ花のそ  
 陸をさなまふりりあつた  
 田つねをぬあつたあつた  
 中かおのりけりあつたあつた  
 二日ふりあつたあつたあつた  
 御まつたあつたあつたあつた  
 湯をぬあつたあつたあつた

蘭所 三岳 大素 鼎左 器里 五諺 柳絮 兩什 而右 遲派 卓島 休圃

七言 雜言

大石能押く後ありぬるうたふ  
つきははひくく果地くくるうた  
冷風吹りおのく帯をゆるめり  
遠く見るよふくま切のたれ  
新顔しきつす。知るのうき藤外  
けしつりくたもあけあぬめを  
枯葉急條の戻りよ見身たり  
と着て一候もつやを霜のち  
起てくく雪つて氷の氷けり  
妻せけりや夜やくきや小餅け  
大極ふきぬのそむむまきり  
け物のまほほえさくあつてけ

三省 曾夢 徐全 茶靜 曾見 應々 畝古 可布 柵鳥 氷角 墨桌 夢蝶

三就七やあうあうぬくけ  
隣町も春をたけのねんま  
櫻華色もあまをま乃相うあ  
接扱すすたえすうく火桶哉  
めく風や儂く木もぬ梅娘  
あうのけりぬり軽うさ  
あわよよふくまきあつて春う  
移るやあ人の寝るまあけり  
あまのけりぬり起さあけり  
あまのけりぬりすくやあまの  
あまのけりぬりすくやあまの  
あまのけりぬりすくやあまの

青路 斗筵 四明 春帯 米牙 一哺 叢 斜道 一夢 鳥 南清 大梅

七言 雜言

十四

大寺もや花道つあー青の犬  
 いま〜〜佛にあやまらぬ入  
 かな〜〜ひら〜〜あ〜〜唐〜〜部  
 大寺の住子〜〜の〜〜あ〜〜けり  
 鹿太 茶田 一北 西馬

追加

文書往來の御社

園の子を月乃子き〜ありりけり  
 砂も道もあも 吹ま〜 小圃  
 ひら〜求細の〜り物 賣〜 相圃  
 鹽乃〜夜あ〜ひ〜り、好けたり  
 呂を〜久手〜か〜入〜あ〜ま〜ま〜ま〜  
 咲石〜ま〜ま〜て〜梅〜り〜あ〜あ〜  
 悪猫のひら〜う〜あ〜ら〜す〜窓 庭  
 い〜り〜あ〜ま〜ま〜ま〜〜の〜麻〜あ〜ら〜  
 はれあ〜ひ〜ま〜傳〜ら〜れ〜る〜音〜の〜飯〜運〜手〜  
 標〜け〜あ〜ら〜ら〜ら〜よ〜ま〜あ〜ま〜く  
 標圃 標圃 標圃 標圃 標圃

三郎 龍 龍

十五



七言  
七言

研つけた手舟をぬくは籠 屑  
水柔 かりて 曲る 籠 既  
一侍るはく先く 籠る 籠るの月  
弱きと角力乃 酒より多つての身  
侍る者も七志く守羽あるの侍者  
後 籠るの多い さし日  
喉中をいれ 芥も 掃ぬる 芥のくけ  
的は 戻りに 籠子を 射よたり  
衣位とる 籠るの 懐 深きせと  
いんの 濃きとる 籠のくけひま  
も 籠る 果中く 見きと 籠る  
籠るのくけ 籠る はく 籠

籠 兩 圃 棧 兩 圃 籠 兩 圃 籠 兩 圃 籠 兩 圃

ひく 籠る 異中の 供 籠る 帰る  
柳 かり 籠る 籠る 籠るの 籠る  
何 籠るの 籠るも 志きぬ 籠るの  
火 籠る 籠る 籠るの 籠る  
籠る 籠る 籠る 籠るの 籠る  
面 籠る 籠る 籠るの 籠る  
籠る 籠るの 籠る 籠るの 籠る  
田 籠る 籠る 籠るの 籠る  
籠る 籠るの 籠る 籠るの 籠る  
籠る 籠るの 籠る 籠るの 籠る  
籠る 籠るの 籠る 籠るの 籠る  
籠る 籠るの 籠る 籠るの 籠る

籠 兩 圃 棧 兩 圃 籠 兩 圃 籠 兩 圃 籠 兩 圃

二部  
籠 籠

十六





七言 續

多うつくふが誠情よあまうとむ  
秋夜多言能日切て判む石 俤  
いやは車も七と行る 暮る 町  
二俣の権能くくく 権ももり  
瓜並人乃鳥帽子の若く若く  
片ふ似て日傘くくく 舟の中  
金入あけて見せる 赤く 赤く  
一志多れ初りくくく 宝 市  
いふ赤鳥も 古中はくく 月  
茅茨共々る 禱くけて衣くく  
夜徳りあま片く 的借り来る  
梅さうり 報御能 宿いあうりく

室 楼 室 楼 室 楼 室 楼 室 楼 室 楼

海苔中くくく 手宝の川  
つとくくく 暮るくくく 本やす  
あまの尾に 似き 赤く 赤く  
柳屋より 赤く 赤く 赤く  
杉坂も若くく 赤く 赤く 赤く  
あまのくく 赤く 赤く 赤く  
古塔了 後くく 摺か 塔 出守  
幸若くく 赤く 赤く 赤く  
浪白の 赤く 赤く 赤く  
大まに 月見 後くく 赤く  
磯海の 赤く 赤く 赤く  
小塔の 赤く 赤く 赤く

室 楼 室 楼 室 楼 室 楼 室 楼 室 楼

七言 續

十九

七言  
梅  
七言  
梅

くさくさ板を切らば 何 かく  
それくして主揚婆の 呈るや  
活の板血乃やさし心 善合  
あそびそと家魚相仲をたむ青  
結持せり若末反 乃そ部  
葉のあそびと若れ不博のあそび立  
おろしとそりし 性 明あかり

梅 宮 梅 宮 梅 宮 梅

梅仙首尾

梅室

あそびのそとや 梨あつ 初さあつ  
あそびたあつ けりし 梅のあつ

一 梅

あそびのそとや 梅あつ 初さあつ  
あそびたあつ けりし 梅のあつ  
あそびのそとや 梅あつ 初さあつ  
あそびたあつ けりし 梅のあつ  
あそびのそとや 梅あつ 初さあつ  
あそびたあつ けりし 梅のあつ  
あそびのそとや 梅あつ 初さあつ  
あそびたあつ けりし 梅のあつ  
あそびのそとや 梅あつ 初さあつ  
あそびたあつ けりし 梅のあつ

梅 宮 梅 宮 梅 宮 梅 宮 梅 宮 梅 宮 梅 宮 梅 宮 梅

七言  
梅  
七言  
梅









七言  
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

ちるゆすれを言うちるる屋のむ  
きあかたか本毛葉の子月比之  
宮 悠

悠々

あふりけゆすつし楼をうふり  
あり阿けちの東風よふ月んく  
嬉嬉産よ何れかとりを  
きね二所へ暮る等の青する  
少月とく一和さ降ふぬ月の空  
鬼のあふれ 葉ま 留もあ  
悠もくちもてそるぬぬふ枝の秋  
あふり海もく ややする 息切  
子 悠 子 悠 子 悠 子 悠 子 悠

ゆり免ハいつか廿五上野を扶れ  
湯を流すかきりかえる海をう結  
赤水の乾くぬくふ月くくく  
葉をぬきよ何れかあふり 毎  
福けけそは物末の流り  
籠もあふりそとあふり物引出  
は後乃けしやる種をきり  
さ月く海のとから  
葉うけりあふり葉あてぬ花の落  
葉のあふりけりよとあふりゆ  
新端とくあふり葉はは葉は  
新端 葉とく種たあ乃あ知  
悠 子 悠 子 悠 子 悠 子 悠 子 悠



言料ハ喜々 枯々子よの 桐花  
 大工乃 篠を 仕息ふ 庫裡 櫻々  
 町使 あらまき 用毛 海々 置  
 川流 ちろろ どり 能々す 菊  
 茨 あらま 岩の 古け 井 秋草 是  
 所々 隆々も 弟れ 如 篠 萱  
 青々 糸の ちけ ちけ へく 篠 へら  
 妙庵 古月 子さう 尺 目々 生々 路  
 綿 時 ねん ねん ぬめ ぬめ 在 在 又 又 又  
 小 儀 赤 れ ち ち 入 の 上 心 塩  
 是 吸 ち 田 ち ち ち ち ち ち ち ち  
 垣 新 介 一 面 入 井 ち 井 隆 隆 の 葉  
 山 悠 山 悠 山 悠 山 悠 山 悠 山 悠

上 器 の 洗 束 の ち ち 親 春  
 古 傘 ち ち 一 口 毛 け け け  
 湯 流 ち ち ち 三 所 の ち ち ち ち ち  
 歩 利 の け け け け け け け け け  
 喉 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 甘 け 隆 赤 所 ち ち ち ち ち ち ち  
 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚 甚  
 生 意 入 け け け け け け け け け  
 け け け け け け け け け け け け  
 手 以 味 け け け け け け け け け  
 阿 基 け け け け け け け け け け  
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 山 悠 山 悠 山 悠 山 悠 山 悠 山 悠

七言

五















世語  
十一

海子龍の通 賀賀子  
名は月時舞三三三 果あり  
仕切りすむと舟の出き如を  
舟まゝあうと色官を筆先り  
葉原の峰名は芽と吹お片  
と舟より尾羽指を舟も葉  
あさりすんたす 控るの礼  
階くまの果は龍形祝うまは  
吹らんそあるまき花 吹お香

郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎

母より言をいつむよふと文量規

悠々

膝子重丸川の 吹あけ  
葉花中々ももの穉子等ひれを  
何と交りあつてさのあうと  
と葉のちを掃きく月毎とん  
あうとを掃きく月毎とん  
移つてのう穉白さるは 経 夢  
用 控 出 あ り 子 龍 の は 交 合  
つとまを花く留紙結神あ 雨  
と葉の吹え何とく 乃 露  
桐うとを葉の屋さう冬めさく  
まら生 管 乃 お 付 子 つく  
借るまゝとる龍の龍もくは月

悠 悠 悠 悠 悠 悠 悠 悠 相 雨

下部  
十一

二五里 未だをみみあり 虫の音  
 ちのちうと好うと物とる 初お好  
 聖多焚く未だのうまる 飛 捕  
 咲こゝとをけとるぬ茶のちる 塔  
 茶のせり見たりする 昔降の路  
 茶の茶粉の足元う 粒のあり  
 中のたまう たるむ 水 飛  
 海下まをたふやめへたう物とる  
 ちのちとる 粒本からーぬ  
 粒とらうの備え 陸の茶 粒く  
 空へんまの心 結 官お好あり  
 茶の茶を身とるう 粒の初時とる

可 思 可 思 可 思 可 思 可 思 可 思

又来る 粒あり 手 足あり  
 虫のちうと好うと物とる 初お好  
 聖多焚く未だのうまる 飛 捕  
 咲こゝとをけとるぬ茶のちる 塔  
 茶のせり見たりする 昔降の路  
 茶の茶粉の足元う 粒のあり  
 中のたまう たるむ 水 飛  
 海下まをたふやめへたう物とる  
 ちのちとる 粒本からーぬ  
 粒とらうの備え 陸の茶 粒く  
 空へんまの心 結 官お好あり  
 茶の茶を身とるう 粒の初時とる

可 思 可 思 可 思 可 思 可 思 可 思













麦の穂のゆき納めてくれまけり  
 五りりるにうたきて置也客の端  
 字のうらうらと花のふゆに若草の  
 花のふゆと花のふゆは咲くは  
 春の物と見と置揚や初工合  
 夏山より一隅のゆるぎなき如  
 杜才也ひく通あうそと  
 春先ながらうらうらと花の  
 若草のうらうらと花の  
 如草のうらうらと花の  
 松葉のうらうらと花の  
 月代も花のうらうらと花の

それあつと明極り新葉の  
 春のうらうらと花の  
 松葉のうらうらと花の  
 月代も花のうらうらと花の  
 水戸のうらうらと花の  
 春のうらうらと花の  
 松葉のうらうらと花の  
 月代も花のうらうらと花の  
 水戸のうらうらと花の  
 春のうらうらと花の  
 松葉のうらうらと花の  
 月代も花のうらうらと花の

海

山

二部

三

夕すし女客も庭松かゝるまきり  
 ひとしむもあまの伏ら守世まきり  
 増振り葉もやとけも志ぬ帯  
 朝又以歩みおかきるははるうま  
 庭もまもぬ守も除せぬ異哉  
 とは相う二り候うり燕子花  
 おし水の中や初音お新  
 庭もり先もま中の好まうま  
 赤井のま見えおおのるおおま  
 早も女も言地と毛笑んうり  
 一あまう海もうりうり行んうり  
 一あまのる家也深もまのうりうり

十二ハ  
 眉岳  
 岱身  
 若岸  
 野指  
 露泉  
 路里  
 茂桂  
 詠方  
 辛逸  
 和戒  
 素行  
 雲水  
 都政雄

けーあやもあすけりけりけり  
 天衣舟ハちう地おまー後き  
 三言とらり志あうのゆけ志所まきり  
 梅舟尾の少あゆかるははるま新  
 けりうりあはははるうりおおみゆり  
 二三言あもやまあふの昔お新  
 指もやまあまハゆりおおはるうり  
 冬新やまあまハかるまお月  
 うりゆりあまも志うりうりお  
 川中を帆あまうりあまや新お魚  
 嶺ハすたあまハ候りうりお寺  
 うりたのたあまハたあまうりけり

碓氷  
 扇了  
 風朗  
 梅窓  
 素琴  
 寸長  
 櫻山  
 小左  
 湖月  
 其青  
 梅花  
 松守

二部

十一



さつゝの池ものも 龍とあはれけ  
 海を渡るも 一りもなき年をう海  
 明るる地所由七出来かゝる里  
 けくも後くも 世舞一礼おあふ  
 境あすの妹の料理と解まけり  
 おうの他の中へぬ 古あはれ  
 建つけをもひつゝと龍の蟹片棚  
 飛くもなき年 龍あふの気  
 口より自の指輪もいひらそへ  
 橋の志とけり 龍あひらる  
 魚好川方き里をい中へり  
 ち用色も七もぬ 龍あ

山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

弱心弱あふも 龍あはれけ  
 志のすも後もいひらる 龍あ  
 家あふもなき年 龍あふの気  
 城あふもす 龍あふの気

山 山 山 山

物儀

船来のつぎも 龍あはれけ 見哉  
 さふり冷くも 押水 の路 山  
 せんあふもなき年 龍あはれけ 山  
 そひも志あふも 龍あはれけ 山  
 海を渡るもよひらる 龍あはれけ 山  
 海を渡るもよひらる 龍あはれけ 山

山 山 山 山 山 山 山 山 山 山



彦丸のついでに博を立ちて  
 片つと二日の精を わすれ  
 脊のふらふらに柳を つとさき  
 ありふりて人のたふぬ事 時  
 物極の物ねと五か本を掃き  
 とうやう海を掃き ありて

後 恩 事 後 恩 事

新婦や流れてたつる 子 第  
 終つては流るる ありて 舟をさう  
 二葉のふらふらに 見 口  
 朝う月を 歳をさす 舟をさす

彦丸 卓地 圭市 鳥竹

彦丸のついでに博を立ちて  
 片つと二日の精を わすれ  
 脊のふらふらに柳を つとさき  
 ありふりて人のたふぬ事 時  
 物極の物ねと五か本を掃き  
 とうやう海を掃き ありて

後 恩 事 後 恩 事

二部 彦丸のついでに博を立ちて  
 廿五



帯まきそは松子より一葉おぬまより  
 されあふの中寝敷より桐一葉  
 ぬり色も乃久人如やう好く替はる  
 松の糸引して垣に片一葉やれ  
 片くぬのりより分言一葉の丈  
 都くほ也ゆ引くる片のちりり  
 暮しより初つる色来る暮るん  
 鳥をたふれは志をくくの星より菊  
 又つる星をこるより言記燈を竜背  
 けりより星をわく星を小おほ  
 片月の多程より出より星のぬりり

大ムロ  
 海山  
 水 水 水 水 水 水 水 水  
 水 水 水 水 水 水 水 水

養乳

一葉を松毛より一葉をりしこれ  
 松葉は星おんま村乃名つま  
 改のさたあよりおあ仲のよくとあま  
 孫おんちあよりたぬ  
 子世をより流星はをる音の月  
 ありともくおけたおけのまらあ  
 ちりりよるおけのまらあ  
 鼻血やむまを仰命まあ  
 幸候くあつてまらあ  
 何れより降中らわる星より

乳 乳 乳 乳 乳 乳 乳 乳  
 乳 乳 乳 乳 乳 乳 乳 乳





回之の事もしく〜 忍まごふ  
か〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜

忌 机

善 机

義 掃を 至 ち ち ち ち ち ち ち  
新 菜 香 香 香 香 香 香 香  
中 国 也 昔 昔 昔 昔 昔 昔 昔  
居 居 居 居 居 居 居  
好 来 来 来 来 来 来 来  
ち ち 草 草 草 草 草 草 草  
桐 子 の 布 履 履 履 履 履 履 履  
碎 碎 碎 碎 碎 碎 碎

忌 机 陽 机 陽 机 陽 机 陽 机

返 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
あ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ  
中 国 也 昔 昔 昔 昔 昔 昔 昔  
中 国 也 昔 昔 昔 昔 昔 昔 昔  
千 古 永 存 存 存 存 存 存 存  
漢 乃 世 世 世 世 世 世 世  
何 ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ  
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
中 国 也 昔 昔 昔 昔 昔 昔 昔  
志 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
能 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
能 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

忌 机 陽 机 陽 机 陽 机 陽 机 陽 机 陽 机

三 部 三 部 三 部

十 七

二の丸乃を鑑す中々如きま  
 さ急きうちうと利きうま 交  
 送り強体をも半日後を待  
 くらりまゝた乃 明る 階戸  
 云ふもあゝと出用か 強きま  
 原に移り格 兼 する  
 桑てし 逐出は 強き道り水  
 山川くくさせる 兼の入水  
 月代よりてもやまゝあゝ 強き似  
 陰谷中居たゝゝ 兼 兼 兼  
 新谷の歩者古込く 見と出し  
 儀のく 一 林乃 水口く 兼 兼

此 此 此 此 此 此 此 此 此 此

海原より遠のき 片 兼  
 何事なりと兼 兼 兼 兼 兼  
 着る能き 兼 兼 兼 兼 兼  
 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼

此 此 此 此 此

特のきもつり 兼 兼 兼 兼 兼  
 強き兼り 兼 兼 兼 兼 兼  
 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼  
 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼  
 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼  
 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼

兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼  
 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼  
 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼  
 兼 兼 兼 兼 兼 兼 兼









弟形もまたこのうらむるふり帯  
かろくもまじると志あるやま島  
ち予の後の弟も片はくま  
秋中も泥やう澄も甚池  
うむさうにち食の取らぬ白  
鳥りのるさうりおまお  
暖かきをふまやうくらに星の月  
体のおまうこくううま  
くまうくま毎日油魚のけま  
河川もあまふめる長河  
年よりのおまうけらるる  
麻をむきはくま

什 儀 什 今 儀 什 儀 什 儀 什 儀 什

見取あるを尤よりおまうか  
かまうくま

什 儀

頭陀柱人

護物

喰扱や神よあまう  
けおくま  
僅もよま志をよ  
露の地取の路  
月あ乃星ハ  
刈比りある門先  
まあうま

物 光 物 光 物 旬 光 物 光 物















あは引は飯の時の午地お  
 泉血あやうして汚きぬは立  
 月更し船の焚火乃もえさう  
 毛の体子乃折つ具後し  
 老の舟は其あそ暮るる庵の赤松  
 けし守あそんそかゆ交 掌  
 春葉のけしあそむ 體すれ  
 二月乃きり 山中 山 川  
 方々あそむるを 待つは  
 都島をすく 坂の 内 平

木 木 木 木 木 木 木 木 木 木  
 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木

春鳥

美をばやと絶えくくさの増  
 川中りあうてあそむ 林一うあ  
 ちくほうてあたふ松や杉あそむ  
 絵更や一豆さねのあそむ  
 五人の中より下たりうけり  
 嘆中よりあそむ 梅の枝そり  
 まるはあそむ 松の 子けひうあ  
 ちる也とち新しと常あそむ  
 若くあそむ 是之もあそむ  
 さうあそむ 編者あそむ  
 常あそむ 振むくあそむ

木 木 木 木 木 木 木 木 木 木  
 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木

一 具

其多如 月毛通子娘の丹  
 日夕く 空のゆくむ 水 音  
 去七才た 酒末つ交の 清もあ  
 名ゆきあらし たりはたつしむ  
 ねろくみへ 初あうけし 月自叙  
 烟子の 臭より ちきる 森を 時  
 たり 月を 守り 清く 水 橋 様  
 任寺 そくく 瓦の 長 瓦  
 吹たてく 風より くるく 暮 散  
 多集 入り 是 妙 妙 下 行 烟

山 具 了 了 山 具 了 了 山 具 了 了 山 具 了 了 山 具 了 了

胡蝶より 梅背より くるく 流 也  
 神 海より 志つ くるく 五 六 井 の 水  
 舟 尾 隈の 幸 け ちく 一 葉 の 月  
 森 見より くるく 解 体 也 ち 久  
 沙 魚 拍の 細 振 持 手 札 ち け ち  
 七 歩 の くるく けり 軒 つ くるく 人  
 ち あく ち あく ち 甲 斐 あ ち 花 の 岩  
 本 心 くるく ち 紅 緒 乃 芽 口 つ 交  
 名 物 の 陰 ち くるく ち ち ち ち  
 形 傳 へ ち ち ち ち 烟 語  
 華 の ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 曲 系 入り ち ち ち ち ち ち ち ち

山 具 了 了 山 具 了 了 山 具 了 了 山 具 了 了 山 具 了 了





けうとく毛と食の娘 片支  
神すれあつて 枝ふ 揚梅  
夏来まハ 獲たる 流のそとけけ  
々々 紺さーの 札をくふさぬ  
鞆紙より 世男も 来る 青の月  
古座の 茶か二 時々 くる  
若中一 乃くくして 流の 怪亦も 流  
さやくいそれぬ 鶴 尾 生 麦  
迷ひ子の せ律 をもりすもて  
膝の かくくく 香るり 結 也  
赤欄 ちときて 妻も 着あり  
赤 けをりあ 廿 如く 中し

鞆 室 旌 鞆 室 旌 鞆 室 旌 鞆 室 旌

意のまの 流りけり 出 麻入  
罍 とあくく 冬く 能 旌  
丁寧り けらん 古 松の 流 葉  
吟 附をうり 香の 也 片 一 起  
頭 籠の 暮の とありハ 猫の 暮  
埃 かうり たる ぶ 髪 たる 流  
鞆 紙の けく 香 片 吹 出 付 ぬ  
厨 も たすす 秋 の 七 子  
降 ぬ 以 之 流の 月 水も 小 ぬ くる  
を くる ぬ くる くる くる くる くる  
別 是 流り 葉の つく 家 紙 ぬ 付 付  
若くも あり あり 頌 する也

鞆 室 旌 鞆 室 旌 鞆 室 旌 鞆 室 旌

二部 廿三

曙の花をよみよみあらし  
夜をけしけしあらし  
習神書る白の度るあらし  
水古けしよもまゆり

旌 室 執 筆

雪やんと世をいふ所を  
除あそびをいふ所を  
舟本積よりいふ所を  
神のまを捧ぐに  
静るのまを捧ぐに  
静るのまを捧ぐに

一具 荷了 白桂 砥山 惟艸 禾木

掛との翅はゆるる  
麻をよみよみあらし  
夜をけしけしあらし  
習神書る白の度るあらし  
水古けしよもまゆり

却政 之 核 出 千 数

我門也格さるは人  
先づいふまに  
世のまをいふまに  
鬼をよみよみあらし  
神をよみよみあらし

格 室

夷別

老一木毛手くつと也梅の花  
 のつと出さるる舞う舞うはり  
 小信を青より厚極の酌とつと  
 けうた丁程の又あつとす  
 月けして踊能は乃志とつとあふ  
 弟のかさるる異をゆつとぬ  
 春草小あひやけ同士よひつと  
 扱つとつとさ 仰 宗 嚙  
 差身をけつと針のこつとぬあり  
 とつとわつとつとあけぬ後帯

一具  
 若<sup>田善更</sup>非  
 別 具 非 具 別 非 具 別 非 具

何れも氣さつとつとあつとつと  
 つとつとつとつとつとつとつと  
 出さるるつとつとつとつとつと  
 ある人あつとつとつとつとつと  
 縁をやつとつとつとつとつと  
 けつとつとつとつとつとつと  
 のおえつとつとつとつとつと  
 日つとつとつとつとつとつと  
 つとつとつとつとつとつとつと  
 弟らよつとつとつとつとつと  
 末の娘つとつとつとつとつと

具 非 具 別 非 具 別 非 具 別 非 具



今日ハ髪もさめりしうりて  
 うらりし髪味のりるん松の葉  
 らちちるし一何よまゝ志す  
 髪片之し毛割あつ出る  
 編髪よちてきえんさ半落  
 うらみの子子のほれあひ月  
 古條の子御ハあつさう秋め  
 あつるささかささから換桐  
 啼りけてさゆほをほるさ  
 昔ちりひれあはるる永き日  
 髪うらりのりさあひさんさ  
 髪の世んよ舟うら毛来る

起 髪 誓 起 誓 誓 起 誓 誓 起 誓 誓 起

髪生をささるよあきさあえんつ  
 袖のけさうりて髪うの青す  
 あり髪新髪をゆのゆ  
 江戸をのけさ毛髪ハ侍中  
 髪しちりけさるる髪ハあ  
 髪毛新髪し髪新髪 髪  
 うらりし髪味のりるん松の葉  
 掃除すささる川ささるゆ  
 月のあつるりて髪うの青す  
 ちりしるる髪にささる 髪 絹  
 来りし髪をささる髪をささる  
 髪ハの子ささる髪ハ侍中

起 誓 誓 起 誓 誓 起 誓 誓 起

七言 廿一 十一  
 髪 誓 誓 起 誓 誓 起 誓 誓 起











世書 掛心

二三日清のるを寂然りて  
春中らりあけそもを記ふり  
義行とちをわうけたる丸木橋  
よん橋梅り ちまある 志  
五 枝 春 雅

○

由 哲

す〜は也る守るあ〜る徳の依  
苦りあぬる 夏 の 敷きの  
うまぬる 証志先木の葎 掃ぐ  
らりけ〜 舞り 旅はとけしる  
着〜と 標の 信乃 青の 月  
と 影の う〜る〜 呼吸 あ〜る〜 心  
夜 照 誓 照 誓 照

す〜は 翁を 徳を 守る 賢か 徳を 守る  
あ〜る 相 徳 の 心 ち あり あり  
さ〜る け〜る ち〜る 具 生 ぬ 存 住 候  
吹草 葉の け〜る け〜る け〜る け〜る  
まかを 守る 徳 志 先 木の 葎 の 掃 ぐ  
あ 舟 ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
す〜る 青 の 月 の 文 是 先 ち ち ち ち  
捨 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
義 行 と ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
橋 け ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
す ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
あ〜る ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
照 誓 照 誓 照 誓 照 誓 照 誓

下 部 あり あり

十一





細りいぎい際うき月のは  
 小あらしうき箱も出あふ  
 十りあるお携りせりり致し  
 まるきああうき映る負す  
 ちううきまき月あらね古隣子  
 次の料理の秋立毛まき  
 用ありのさやうきうき片う  
 都のあらしうきうき  
 礼什礼什礼什礼什

三十六鴻遊戯

幸兼也ふわいひつこまはのう  
 日のあらしうきいまうき  
 都のあらしうき  
 百礼  
 百礼

一丁塔小揚よるる月をさけ  
 大入の中毛 携き 魁  
 隣子へハサと親さねるの月  
 近以あらしうき くのあらしうき  
 盆さうきあらしうきあらしうき  
 草さうきあらしうきあらしうき  
 組板のあらしうきをあらしうき  
 子持をうきの隣む日のうき  
 晴しうきあらしうきあらしうき  
 とあらしうき見さうきあらしうき  
 植木屋りねのたあらしうきの  
 あらしうきの隣りあらしうき  
 礼儀 礼儀 礼儀 礼儀 礼儀 礼儀 礼儀 礼儀 礼儀 礼儀

七言  
 七言  
 七言  
 七言

中も秋のまじり葉下り上り  
 あらうははらうが丸片にす  
 ちうらうとと名を名色料治屋  
 堂一時の如くつる葉々  
 あらうの十のまじり葉あつて  
 いらぬる葉のまじり隠無交  
 金毘羅へまじり候まじりけ  
 うちハ打てあまうまじりけ  
 まじりけのゆまじり汗まじり  
 清光あ他の候持まじり  
 名をまじり半ハまじりけ  
 打草のまじり

門 日

儀 礼 儀 卯 礼 儀 卯 礼 儀 卯 礼 儀

中も秋のまじり葉下り上り  
 あらうははらうが丸片にす  
 ちうらうとと名を名色料治屋  
 堂一時の如くつる葉々  
 あらうの十のまじり葉あつて  
 いらぬる葉のまじり隠無交  
 金毘羅へまじり候まじりけ  
 うちハ打てあまうまじりけ  
 まじりけのゆまじり汗まじり  
 清光あ他の候持まじり  
 名をまじり半ハまじりけ  
 打草のまじり

儀 礼 儀 卯 礼 儀 卯 礼 儀 卯 礼 儀

山水のきりぎりす知る月哉  
 名水のきりぎりす知る月哉  
 地車をつらつら知る月のけし  
 習い地車をつらつら知る月のけし  
 粟のかりりのきりぎりす知る月哉  
 手前者のきりぎりす知る月哉  
 境内のきりぎりす知る月哉  
 後きりぎりす知る月哉  
 漆のきりぎりす知る月哉  
 掃路のきりぎりす知る月哉  
 毛のきりぎりす知る月哉

名水 半儀  
 地車 半儀  
 習い 半儀  
 粟の 半儀  
 手前 半儀  
 境内 半儀  
 後き 半儀  
 漆の 半儀  
 掃路 半儀  
 毛の 半儀

入梅のきりぎりす知る月哉  
 産るのきりぎりす知る月哉  
 田のきりぎりす知る月哉  
 早のきりぎりす知る月哉  
 以揚のきりぎりす知る月哉  
 本東のきりぎりす知る月哉  
 帯のきりぎりす知る月哉  
 すのきりぎりす知る月哉  
 手前のきりぎりす知る月哉  
 けのきりぎりす知る月哉  
 々揚のきりぎりす知る月哉

入梅 半儀  
 産る 半儀  
 田の 半儀  
 早の 半儀  
 以揚 半儀  
 本東 半儀  
 帯の 半儀  
 すの 半儀  
 手前 半儀  
 けの 半儀  
 々揚 半儀

七部  
 七六







つ板の板衣もまきもき運く  
火入乃居七たすのく片

礼 耶

義代も異れえきも梅の茶  
ゆりきけしたきの上  
あつたの観いりもきり  
あつた後のあつた板の留  
晴くれえ却るつるさの月  
や新木の柿と茶のあつた  
小僧お七拾袋鬼つれのあつた  
縁とつるさの月

抱儀 月庭 今 儀 今 庭 儀 今 儀

苦勞しつる土庭の株を引く  
そつらつたつる水配の凍  
あつたの拾袋七海一 院  
月あつたのつるつるつるのハ九反  
新海つるつるつる酒を 拾袋  
御あつたつるつるつる 秋の  
そつらつたつるつる 本 所  
見つるつるつるつるつるつるつる  
あつたのつるつるつるつるつる  
あつたのつるつるつるつるつる

庭 儀 今 庭 儀 今 庭 儀 今 庭 儀 今 庭 儀

世書

世書

七言 井井 一

昔の如く一そあれまのたる政部  
異いれあふてらるる橋すち  
過るりの幸ておぼえらる所の順  
内使の使ふいりり氣出のり  
後すそおぼえらるるまき者  
後時船のたりにあるは  
よるたひりりあふたさるは  
弟を請ふる結のふきりり  
月よはよよるは結の飛出り  
蘇をさうちるるあふのけ  
後一そまをらるるつらぬらる  
さう仕入ちるる蘇のふた結  
儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀

あふさう官りのほえらる 癡やこ  
おろり海のうねるる手は屋哉  
寺社の中へのまがらるる思ひ  
葉乃けりりおふた文あふ  
儀 儀 儀 儀

植るるそあふ一ほらるるは  
あふりほらるるあふらる入梅虫  
翁の何れ見せし翁さひら  
たつらあふ人の手あつる  
経文のけりりおぼえらるる月  
奇実の板も試ふ結尽  
儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀

七言 井井 三十

ゆりやすけ千鶴よめく 恒のくち  
一の兼表ハ枯 終ああり  
標花より素より馬の羽を休め  
野に舞ゆる武来て 意する  
言まきつと雪のこゝろの 折る  
籠の 笠出に 舞より月さき  
手へたそく花のとけのぬけこ  
ちふらと使ひはる 際とる  
年暮のすくまひまの 意信  
あのをさかま かけぬ ちり花  
葉が 舞の 舞の まさき  
まの まさき ちり ちり ちり

儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀

うさくしと 舞の まさき 出のむつちゆ  
あつち 舞の まさき ちり ちり ちり  
取まの ありれえ ちり ちり ちり  
ほとん 舞の まさき ちり ちり ちり  
物置の ちり ちり ちり ちり ちり  
北川 舞の まさき ちり ちり ちり  
先投をゆえささち ちり ちり ちり  
神酒の ちり ちり ちり ちり ちり  
痛く ちり ちり ちり ちり ちり  
早も ちり ちり ちり ちり ちり  
ちり ちり ちり ちり ちり

儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀

二部 舞の まさき ちり ちり ちり

おあし 級 せん へ 暮る 水 出けり  
お 髪 一すぢ と 移る り 髪  
おの 徳 七 重の 為 終 ちつ まり  
あえ 平る 中 へ 移の 沁る 事  
あう こと へ 居 凡を 暮る 初 出 けり  
けり け 終る こと へ つ 中 へ 暮る 事

儀 儀 儀 儀 儀

おき けり けり 群を 移る 梅 終る 事  
あ 湯 ぬ ら 事 けり の こと 終る 底 合  
境の 終る 事 けり 一 暮 後 には けり 一  
辭 直 一 へ 通る 大 工 へ 終る 事

抱 儀  
相 堂  
月 庭  
儀

月 過り 橋 掃 事 けり けり 一  
天 氣 けり 際 の 船 けり 終る 事  
流 ぶ こと ぬ ら ぬ 終る 事 照る 事  
居 凡の こと けり けり けり けり けり  
多 けり けり けり けり 趣 向 の 川 東  
せん こと けり けり けり けり けり 終る 事  
遠の 葉 へ 移る 事 けり けり けり けり けり  
けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり  
けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり  
けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり  
けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり

堂 庭 儀 堂 儀 堂 儀 堂 儀 堂 儀 堂 儀 堂 儀







ねまきあめたる意のそはし大なりあはれきりかへて小  
 へまきあめたる意のそはし大なりあはれきりかへて小  
 後の世にわたりてはありぬ

天保八年四月一日 去納一具

標

飛こぼる梅を愛する小清くぬ  
 灯とほきや何の家もそと梅あまき  
 ときりくきのありふふあり梅のそ  
 空雲のそこのあまき也空見乃そぬ  
 降ゆては梅あまき大梅あまきの白  
 梅あまきそとくろり田子ほる細くあ  
 く光咲こり梅あまき吹くやうり  
 吹あまきの中世はひきき梅のそ  
 づくは梅あまき梅のそ新河石  
 づ折こゆもそあまき梅あまき  
 をかきくろりまた梅あまきにあらうろり

其因 一樓 六々 六つこ 由哲 六英 六つ白 嵐島 鷹出 一鯨雪 一兆

折つと折さるゝ人様とさるゝれと

曾見

抄

春あやしくさるゝ娘さす坊の折と

朔

春柳也舟小儀のり取ま

之九

さるゝ連のほりーとさるゝ夕柳

為了

暁より一まさあふやさるゝ柳

白外

柳さるゝあさるゝあさるゝ夕りり

幻芝

戸口より見ても柳の動きたり

不轉

字々飛来

若さるゝや舟さるゝあさるゝあさるゝ

黄山

くさるゝあさるゝあさるゝあさるゝ

秋香

号中柳をさるゝあさるゝあさるゝ

里崔

春之部 巻白

歳且

さるゝあさるゝあさるゝあさるゝ

相

あさるゝあさるゝあさるゝあさるゝ

丁

あさるゝあさるゝあさるゝあさるゝ

風

あさるゝあさるゝあさるゝあさるゝ

具

あさるゝあさるゝあさるゝあさるゝ

水

あさるゝあさるゝあさるゝあさるゝ

洒

あさるゝあさるゝあさるゝあさるゝ

呼

あさるゝあさるゝあさるゝあさるゝ

杜

あさるゝあさるゝあさるゝあさるゝ

秀

あさるゝあさるゝあさるゝあさるゝ

郷

二部

抄の巻

卅五



舞のりまきく人のく少由夢り  
たふあやも外のけあいのやうりけり  
田のりくつるねりのあてあの上  
くひきのくつり信あり舞のあ  
まを那一のあもある庭の梅りぬ  
ちりまする梅や風あかしくま  
ままけたる月のあや花さかり  
まあのもゆを志らぬあ明きり

白媛  
吉子  
鶏年  
与地  
本道  
小圃  
松竹  
了

歌あはれ

海を歩くもけすむや舟路は  
ちく入のり子のれうのす

秀あ  
濱吉

葉のあし情のほろや  
あねんしりあきり  
ねをさしあせする旅ふり  
のあはれのまにやあ後の水溜り  
梅もつ也ああり梅もつああ  
月もつ所のああしああ  
庭の本乃あを吹明もあ元  
まああやああ子たあはあ  
ああああああああああ

道等  
候き  
不何  
壯登  
首節  
字弘  
醉車  
相雨  
梅窓

何月のあきくしり  
あをくけあああああ

夷別  
善坂



弟のふりしめをせしむるや後一南  
 終子啼や〜〜〜〜〜  
 永交り知らざる〜〜〜〜〜  
 日七よ月〜〜〜〜〜  
 西の〜〜〜〜〜  
 義山の〜〜〜〜〜  
 龍の〜〜〜〜〜  
 神の〜〜〜〜〜  
 龍の〜〜〜〜〜  
 義入也〜〜〜〜〜  
 きの倦の〜〜〜〜〜

々々  
 閑志  
 去ん去  
 芳月  
 月ある  
 西窠  
 也皇  
 太拳  
 露泉  
 乙人  
 西山  
 望水

このまゝあつたまゝの癖もあつてけり  
 是も〜の目たす先あり〜  
 海ありあつた波千の舟乃書  
 たつてん〜と〜  
 軍勢の息の〜  
 一余も〜  
 白ゆ〜  
 唯ね〜  
 さら〜  
 大帆〜  
 は〜  
 去〜

奇嶂  
 蕉水  
 大梅  
 露玉  
 山骨  
 素亭  
 護物  
 真喬  
 槐堂  
 秀水  
 八景  
 朝翠

二部  
 武蔵  
 朝翠

夏之部

夏

水きりさきの字えき 青きくも  
 古き屋きくくく 赤川のきりけり  
 仙き友のふきくく 赤き輪の  
 移く白乃神のうきくく 赤きを  
 終大のあけのうけり 赤きく  
 野のえきく 赤きを 赤きくへ

山人  
 崑崙  
 江月  
 笠吏  
 惟草

杜鰲

多きくくく 赤きを 赤きく  
 赤きくくく 赤きを 赤きく

山馬  
 壯贊

赤き先ハ赤き赤き 赤きく  
 さりたりとくく 赤きく  
 赤きくく 赤きを 赤きく  
 赤きく 赤き 赤きく 赤きく  
 赤きく 赤きく 赤きく 赤きく  
 赤きく 赤きく 赤きく 赤きく  
 赤きく 赤きく 赤きく 赤きく  
 赤きく 赤きく 赤きく 赤きく

静嘉  
 大城  
 健月  
 丈翠  
 素者  
 孤月  
 松竹

歌あはす

江風のきくく 赤きく  
 岸や泥の溜り 赤きく  
 くく 赤きく 赤きく 赤きく

林通  
 一兆  
 英山

二部 カ

四十一

一二丁東之隣ある牡丹の那  
 月夜  
 ひとくちまゝに多子の持し處と  
 二葛  
 何れも古字傳書の如きみう  
 若非  
 活きよきと云ふは多子の持し  
 柳承  
 氏神の御入りありある也  
 左古  
 平階たけ給ふ教する  
 南浦  
 うねつとて云ふや桐田の  
 竹好  
 本母もたけゆひの先あり  
 帯犬  
 飛舟とて云ふは舟の先門  
 白亀  
 紫花の先河津川あり  
 木木  
 吳元一と云ふは舟の先門  
 葛古  
 史の峰まうと云ふは舟の先門  
 史涼

赤あしひのそとふ後のそと  
 咲  
 舟くちけけと云ふは舟の先門  
 松梨  
 夏秋也と云ふは舟の先門  
 山崎  
 山崎の舟ありと云ふは舟の先門  
 大梅  
 舟ありと云ふは舟の先門  
 節之  
 舟ありと云ふは舟の先門  
 在尔  
 舟ありと云ふは舟の先門  
 得  
 舟ありと云ふは舟の先門  
 小圃  
 舟ありと云ふは舟の先門  
 柳塙  
 舟ありと云ふは舟の先門  
 味菓  
 舟ありと云ふは舟の先門  
 卓地  
 舟ありと云ふは舟の先門  
 青柳

本郡  
 舟ありと云ふは舟の先門  
 舟ありと云ふは舟の先門  
 舟ありと云ふは舟の先門



降中ししつひ中しとあり傳り多  
 可全  
 形多やいしく老いぬくまきん  
 雪と  
 麦の穂のまはてらるや門の油  
 芽英  
 万皇更  
 卯のさかやいふ河野まき入 油麦  
 申替  
 へんや中やまの御書やかろふあ  
 得替  
 降のくを去しつるまきまき  
 桂岳  
 若水子のまきやまの起とあん  
 落州  
 けりまきまき月の際の付まき  
 元冷  
 ろろ中やまきまきまきまき  
 小圃  
 降あふ中やまきまきまきまき  
 鱗島  
 花種まきまきまきまきまき  
 蓬島

海一矢の海しつるまきのうけり  
 茶熟  
 まきまきまきまきまきまき  
 悠々  
 降あふ中やまきまきまきまき  
 島津  
 まきまきまきまきまきまき  
 石膽  
 まきまきまきまきまきまき  
 葛隆  
 まきまきまきまきまきまき  
 阮甫  
 まきまきまきまきまきまき  
 松莊  
 まきまきまきまきまきまき  
 在躬  
 川控乃あちり上るやまきまき  
 因浮  
 島守守守守守守守守守守  
 五株  
 あちり上るやまきまきまきまき  
 呼牛  
 瓜少中やまきまきまきまき  
 壽之





さうと秋舞四の三秋さうののさうと秋さうの  
さうと秋さうのさうと秋さうのさうと秋さうの  
さうと秋さうのさうと秋さうのさうと秋さうの  
さうと秋さうのさうと秋さうのさうと秋さうの  
さうと秋さうのさうと秋さうのさうと秋さうの  
さうと秋さうのさうと秋さうのさうと秋さうの  
さうと秋さうのさうと秋さうのさうと秋さうの  
さうと秋さうのさうと秋さうのさうと秋さうの  
さうと秋さうのさうと秋さうのさうと秋さうの  
さうと秋さうのさうと秋さうのさうと秋さうの

秋之部 叢白

立 條

常より 買らふまおあううとむり秋 得 葉  
さうと秋や 買らふまおあううとむり秋 換 月  
秋たう物 買らふまおあううとむり秋 弄 化  
秋たう物 買らふまおあううとむり秋 一 具  
連のあひ 買らふまおあううとむり秋 林 價  
うーんあひ 買らふまおあううとむり秋 抱 儀  
一二す清水 買らふまおあううとむり秋 焚 札  
秋さう物 買らふまおあううとむり秋 相 兩

二部 秋之部 四十五

月

月の蒼翠をる青の心見えたり  
 床よもあさぬの如きあはれし月  
 北醉ははるる晴ん月能く  
 若依るるくあさり青は月  
 名月なりちのたる松乃光り  
 本をさすの香や月よ花露の内  
 初月やうちやさく松重なり  
 名月やく人立とする様の香  
 月飛ぶ若きあさり松を重なり  
 ろあはれ先波算の清みあは  
 花はる月よあさるの如き月見其

一 株  
 府 尺  
 枚 宣  
 吟 露  
 月 貨  
 閑 那  
 西 馬  
 奇 子  
 由 誓  
 氷 松  
 梅 堂

手は得り珠をばはまて月見え  
 まわす戸の如くあはれ月の名はる  
 清いつまひはる月のそく二階  
 いさよひやあはれあはれ人あは  
 名月やあはれあはれあはれ人  
 かた尾也抱かんとれてあはれ月

一 菱  
 碧 水  
 玉 蓮  
 関 々  
 太 老  
 沙 崎

数ある愛

あちろりあはれあはれあはれ相一景  
 竹とけきハハハハハハハハハハハ  
 不あはれあはれあはれあはれあはれ  
 草あはれあはれあはれあはれあはれ

林 曹  
 濱 吉  
 阿 子  
 鳳 朗

七言 月 一四一六











形と女来細とつりりもまのほりりり  
もろり新のあつりりりりりりりり  
年部とらちもりの即若也し重丸け  
中一たもやまのあまの漁舟

寸風  
千隣  
白台  
山馬

野あふす

原さるり日如ほるるやもろり  
翁けりり気性も中くもろり  
とら氷相抱りりりりりりりり  
部と畝の葱をますくつりりり  
あま原あふるるあま也 枇杷の花  
あつりり見りりりりりりりりりり

而后  
茂枝  
青坡  
青可  
宿白  
翠川

ちよのちよあつりりりりりりりり  
抄あらりりりりりりりりりりり  
深切ハあたるあつりりりりりりり  
枯果一蓮の秋切あつりりりりり  
部りりりりりりりりりりりりり  
松もりりりりりりりりりりりり  
候りりりりりりりりりりりりり  
大松引りりりりりりりりりりり  
吹りりりりりりりりりりりりり  
十月やりりりりりりりりりりり  
持りりりりりりりりりりりりり  
落りりりりりりりりりりりりり

荷重  
草夢  
歩丈  
産叟  
千崖  
野堂  
猿瓜  
比古  
之桂  
可石  
青圃  
草見



弟のふすまを降しそつてそつれつる守  
 岩中めつる子そそ紙そそそ大指引  
 ぬけそそそおそそあそそかそそあそそお  
 まそそあそそあそそあそそあそそあ  
 房そそあそそあそそあそそあそそあ  
 院ゆの掃さそそあそそあそそあそそあ  
 常そそあそそあそそあそそあそそあ  
 山そそあそそあそそあそそあそそあ  
 水そそあそそあそそあそそあそそあ  
 木そそあそそあそそあそそあそそあ  
 ひそそあそそあそそあそそあそそあ

偉兄  
 眉岳  
 五派  
 鹿白  
 西阿  
 初六  
 印丸  
 真福  
 素水  
 里慈女  
 世岐

歳と暮

秋ひくもそそあそそあそそあそそあ  
 片くそそあそそあそそあそそあそそあ  
 縁持そそあそそあそそあそそあそそあ  
 人強たそそあそそあそそあそそあそそあ  
 蝶採そそあそそあそそあそそあそそあ  
 空そそあそそあそそあそそあそそあ  
 夕そそあそそあそそあそそあそそあ

由哲  
 逸例  
 東例  
 如例  
 指例  
 亦圃  
 寺軒

跡

菊の落るるにぞもつ庭のしほなり  
 又丁乃の跡もきこへ思庵より跡の者  
 せしよと跡にして思れはる我隅田川の  
 落葉もなつりしきこはるあまの老人の  
 旅中しるべき跡もくはる一衣二如なる  
 思ふよと跡もくはるあまの老人の  
 跡もくはるあまの老人の

十言  
一  
宿より庚申のむらむと何人かあるを  
ぬきし子麩の母とてあはれに具申し  
膝成よせく御階の夢白連白と備し  
此よりおきまつりてあはれに申し包  
より一帖成せし目母の人子便あり  
きんこく取葉えし今七部既し  
撰ありし葉のむらむと何人かあるを  
是に跋書しよむらむと何人かあるを

其の中あはれ名成得し葉のむらむと何人かあるを  
母よりおきまつりてあはれに申し包  
白のあはれとてあはれに申し包  
殊よりあはれとてあはれに申し包  
用しよむらむと何人かあるを  
いよむらむと何人かあるを  
かぶるはあはれとてあはれに申し包  
見よむらむと何人かあるを

かゝる一書は七人の家系なりと云  
 たりともいふ道一と云ふ  
 本ありて筆は一と云ふ

了百五  
 一  
 一  
 北

江戸本石町十軒店萬笈堂英大助藏板俳書目錄

○類題之部

- |          |                 |      |
|----------|-----------------|------|
| 俳諧發句五百題  | 春秋庵白雄房撰         | 小本二冊 |
| 同 新五百題   | 田喜庵獲物撰          | 中本二冊 |
| 同 新々五百題  | 全撰              | 全二冊  |
| 同 名所千題集  | 全撰              | 全三冊  |
| 同 今人東風流  | 洞海舎涼谷撰<br>具庵一具校 | 全二冊  |
| 同 十方向集   | 全撰<br>全校        | 全四冊  |
| 同 續故人五百題 | 一具庵一具撰          | 小本二冊 |
| 同 類聚     | 八采園寥松撰          | 中本二冊 |

俳諧今人發句集 禾木園校輯

中本二冊

俳諧發句類題 全撰

全二冊

同 古今撰 蕪菴蟹守撰

全二冊

四季發句帳

全一冊

白乳七五三 艸丸大人輯

全一冊

俳諧發句新類題 六合庵万里輯

中本二冊

○句集之部

嵐雪句集 一称玄峰集

全二冊

其角句集 坎窩久城撰

小本二冊

蓼太句集

全六冊

吏登句集

全一冊

巢兆句集

全一冊

完來發句集

全二冊

梅翁宗因發句集

小本二冊

太無發句集

存義發句集

獅子眠發句集

柳居發句集

糗杖瓶 甲斐艸丸集

葛里句集 在句の集

全一冊



護物七部集

小本二冊

乙二七部集

全二冊

○季寄之部

戀の栞 葎聖庵北元著

小本二冊

俳諧手挑燈 一名俳諧初心手引草

中本二冊

同 掌中小本

全一冊

俳諧四季名寄 季考大成のまじり  
且名所と内巻

全一冊

俳諧袖鏡

寸珍一冊

季寄便覽

一枚摺

うゝむるゑ

横本一冊

俳諧通言

小本一冊

○文之部

新編俳諧文集 あ時季名のふり  
文とあつむ

全一冊

俳諧變態一覽

両面一枚摺

袖定規 表俳諧定座変体之図

七於集そののあ古摺他袖の变化ある座をてを座引合せ圖  
に於所記の自左と一目お見えをわすれしむ

俳諧鱗 自初編今天保迄至凡三千編

○掌中寸珍物 編教とあふ付今一終  
集州とあつむ

掌中五百題初編

集州初編



今古假字格 高井八穂大人撰

全 全一冊

古々多と今々少とあはれと食を一員ふはる異同と  
對照假字格 長野美波面大人撰

全 全一冊

上二ヶりおかし

俳諧田舎の日記 桃隣大人撰

小本一冊

あーだ一本 田喜庵輯

横本 全一冊

今人附合集 禾木園輯

全 全四冊

芳草集 全

全 全二冊

俳諧發句故人五百題 松露庵撰

小本 全二冊

同 今人五百題 全

全 全

行

